

竜 神 遺 跡

長野県畜産試験場整備事業
発掘調査報告書

1987

塩尻市教育委員会

竜神遺跡

—長野県畜産試験場整備事業
発掘調査報告書—

1987

塩尻市教育委員会



鹿耳門砲臺之東對照富產試驗場

序

竜神遺跡は長野県畜産試験場の南隣りの尾根にあり、市内一円を展望できる非常に恵まれた環境にありますが、これまで遺跡としてはほとんど知られていませんでした。折しも中央道長野線が当地に掛かったことを機に新遺跡として発見され、昭和60年に緊急発掘調査が行われ、縄文時代中期の遺跡であることが明らかになっています。この度、同畜産試験場所管の場内整備事業がこの地区に入り、遺跡の一部が破壊されることになったため、埋蔵文化財保護の立場から塩尻市教育委員会に緊急発掘調査を委託されたものであります。

発掘調査は10月の秋日和の中、順調に行われ、その結果、数多くの遺構、遺物が確認され、今後該期の研究を進めるうえで極めて貴重な資料を提供することになりました。

終わりにあたり本調査が無事完了するについては、県畜産試験場の職員の方々の深い御理解と温かい御援助によるものであり、ここに衷心より敬意と感謝をささげる次第であります。

昭和62年2月

塩尻市教育委員会

教育長 小松 優 一

例 言

1. 本書は、長野県畜産試験場整備事業に伴う、竜神遺跡発掘調査報告書である。
2. 調査経費については全額、長野県畜産試験場からの委託金による。
3. 発掘調査は、遺跡発掘調査団(団長 中島章二氏)に委託し、現場での調査は昭和61年10月3日から10月22日まで行った。
4. 遺物および記録類の整理作業から報告書作成は、昭和61年11月から昭和62年2月にかけて行った。作業の分担は次のとおりである。
 - 遺構…整理、トレース；鳥羽。
 - 遺物…実測、拓本、トレース；腰原。
 - 図版組み…鳥羽、腰原。
 - 写真…鳥羽。
5. 本書の執筆は各調査員が分担して行い、文責は文末に記した。
6. 本書の編集は鳥羽が行った。
7. 本調査の出土品、諸記録は平出遺跡考古博物館に保管している。

目 次

例 言

第 I 章 調査状況

- 第 1 節 発掘調査に至る経過 1
- 第 2 節 調査体制 2
- 第 3 節 調査日誌 2
- 第 4 節 遺跡の状況と面積 4

第 II 章 遺跡周辺の環境

- 第 1 節 自然環境 5
- 第 2 節 周辺遺跡 6

第 III 章 遺跡の概要

- 第 1 節 遺跡の概要 9
- 第 2 節 発掘区の設定 12

第 IV 章 遺 構

- 第 1 節 竪穴状遺構 13
- 第 2 節 小竪穴 14

第 V 章 遺 物 21

第 VI 章 まとめ 23

第 I 章 調査状況

第 1 節 発掘調査に至る経過

- 昭和60年7月21日 長野県畜産試験場より市教委へ同試験場整備事業の予定地区内における埋蔵文化財の取扱いについて照会があった。さっそく市教委の小林、鳥羽は同試験場百瀬管理部長の案内のもとに現地調査を行い、地区内では僅かな箇所を除き、大部分がすでに牧草地にする際、地表面が削平されており、遺跡が消滅している事実を確認する。
- 昭和61年2月13日 県畜産試験場、県文化課、市教委により現地調査が行われ、同地区内で工事先立ち3ヶ所の緊急発掘調査と1ヶ所の立合調査の必要性を明らかにする。このうち2ヶ所については、その後、計画変更により発掘調査の必要性が失くなる。また県文化課の申し入れにより市教委は発掘調査の依頼を受ける。
- 6月28日 県畜産試験場、市教委により発掘個所の現地協議が行われ、調査範囲および調査日程を確認する。
- 7月2日 発掘調査の計画書および予算書について、県文化課と協議。
- 10月3日 長野県畜産試験場整備事業に伴う電神遺跡発掘調査が県畜産試験場より市教委へ委託され、市教委は電神遺跡発掘調査団（団長 中島章二氏）に調査を再委託する。

発掘調査実施計画書（一部のみ記載）

2. 遺跡名 電神遺跡
4. 発掘調査の目的及び概要 開発事業長野県畜産試験場整備事業に先立ち、300㎡以上を発掘調査して記録保存をはかる。遺跡における発掘作業は昭和61年10月25日までに終了する。調査報告書は昭和62年3月25日までに刊行するものとする。
5. 調査の作業日数 発掘作業10日 整理作業10日 合計20日
6. 調査に要する費用 1,800,000円（委託料）
7. 調査報告書作成部数 300部

第2節 調査体制

団 長 中島 章二 (市文化財調査委員長)

担 当 社 鳥羽 嘉彦 (長野県考古学会員、市教委)

調 査 員 小林 康男 (日本考古学協会員、")

伊東 直登 (長野県考古学会員、")

市川二三夫 (")

調査補助員 腰原典明、柳沢正寿

参 加 者 小沢甲子郎、清水年男、白木正富、高橋烏徳、高橋阿や子、中野久行、保高愛子、
松下おもと、村山 明、市川きぬえ、池田貴江子、小松幸美、小松義丸、小松淳子、
小松静子、小松鈴子、小松三枝子、小松重久、桜井洋子、牧野内嘉津子、三沢茂子、
太田正子、中村ふき子、古厩馨子、山本敬子、金田和子

事 務 局 小松 優一 (市教育長)

二木 三郎 (市教委総合文化センター所長)

清水 良次 (" 文化教委担当課長)

原田 博 (" 文化教委担当次長)

小林 康男 (" 平出遺跡考古博物館学芸員)

鳥羽 嘉彦 (" 文化教委担当主事)

伊東 直登 (" 文化教委担当主事)

第3節 調査日誌

昭和61年10月4日(土)曇 発掘調査区付近の表面踏査、試掘を行う。試掘の結果、深さ25~40cmでローム層にあたる。表面踏査では採集遺物なし。

10月6日(月)晴 青柳重機のバックフォアにて表土除去作業を行う。西側中央部および北西隅で縄文時代中期の土器片出土。遺構らしき落ち込みはみられなかった。表土除去面積950㎡。テントおよび発掘資材の搬入。

10月7日(火)曇 本日より本格的発掘作業開始。参加者の受付終了後、担当者より日程および遺跡概要の説明。テント設置と周辺の草刈りを行った後、調査区西端より助簾による遺構検出作業を始める。小竪穴数基と縄文時代中期土器片数片出土。

10月8日(水)雨 雨天中止。

10月9日(木)晴 一昨日に引き続き検出作業。西側北縁に幅4mの落ち込みを認める。土器片が数片出土したが、やや攪乱しており斜面を埋積する押土の可能性を伺わせる。調査区の位置

する尾根状台地の両斜面を調査するため、北斜面にA、Bトレンチを、また南斜面にC、Dトレンチをそれぞれ斜面と直交する方向に設定する。

10月10日（金） 定休日

10月11日（土） 雨 雨天中止。

10月12日（日） 定休日

10月13日（月） 晴 検出作業続き。調査区西側では、かなり小竪穴および土器が出土したが、中央域では、僅かに小竪穴が検出されたのみであった。調査区の200分の1の地形図測図。A～Cトレンチ掘下げ。

10月14日（火） 快晴 東側の遺構検出作業。小竪穴、遺物は僅少。Aトレンチセクション図化。B～Dトレンチ掘下げ。B、Cトレンチは完掘。南側の一段下のテラス面に東西トレンチを設定したEトレンチとする。試掘では黒土層1m以上を有する。

10月15日（水） 晴 遺構検出作業でやや削り足りないと思われる箇所があるため、全域に渡って再度削平を行う。B～Dトレンチセクション図化。Dトレンチ中腹より炭化物の混入する落ち込みを確認する。Eトレンチ西側より縄文中期藤内期土器片、打製石斧多数出土。

10月16日（木） 晴 小竪穴の掘下げを行う。混入と思われる土器が僅かに出土。Dトレンチの落ち込みを掘り下げたところ、壁および床を検出。東西へ拡張する。

10月17日（金） 晴 小竪穴掘下げ続き。1～24号小竪穴セクション図化。Dトレンチの竪穴状遺構のプランを検出。6.0×1.5mの隅丸長方形を呈し、北西壁際には周溝を有する。Eトレンチ掘下げ、ローム面に達する。底付近では遺物皆無であった。風が強く寒い一日だった。

10月18日（土） 快晴 小竪穴掘下げ続き。セクション図化が終わったものから完掘、平面図測図。Eトレンチの遺物が主に出土した西側に2mの拡張区を設定し掘り下げる。調査区内4個所に、2×2mのグリッドを設定し、土層および先土器文化層確認のための掘下げ開始。これまでに出土した遺物の取り上げを行う。

10月19日（日） 定休日

10月20日（月） 快晴 小竪穴掘下げ続き。39号小竪穴までセクション図化。写真撮影。グリッド掘下げ続き。どのグリッドでも遺物皆無。A・Bトレンチ写真撮り。竪穴状遺構の平面図測図。Eトレンチセクション図化。西側の拡張区では、ほとんど出土遺物はなく、ローム面はやや西へ傾斜していた。

10月21日（火） 晴 小竪穴掘下げ。40号小竪穴まで完掘、平面図測図。遺構全体図測図。C～Eトレンチ写真撮り。

10月22日（水） 晴 遺跡全体写真撮影。器材片付け、運搬。本日をもって現場における作業をすべて終了する。

整理作業は11月～2月、平出遺跡考古博物館において実施された。出土遺物の洗浄、註記、復

元作業と同時に実測図の整理、製図、遺物の実測、図版作成。また、報告書の原稿執筆を行う。

第4節 遺跡の状況と面積

遺跡名	場 所	現 況	種 類	全体的面積	事業対象面積	最低調査予定面積	調査面積	発掘経費
電 神	塩尻市大字片丘 字電神10985-1	牧草地	散布地	8,000㎡	2,100㎡	300㎡	1,150㎡	1,800,000円

第1表 発掘調査経過表

遺跡名	月					主 な 遺 構	主 な 遺 物
	10	11	12	1	2		
電 神	発掘	遺物整理 図面作成 原稿執筆				竪穴状遺構 1 小竪穴 40	縄文中期 土器、石器

(事務局)

第II章 遺跡周辺の環境

第1節 自然環境

竜神遺跡は塩尻市の東部、片丘南熊井地籍にあり、現在、県畜産試験場が建つ台地と、中央道長野線塩尻インター建設中の台地にそれぞれ南北を挟まれた東西に延びる瘦尾根上に展開する。



1 : 50,000



1. 竜神遺跡
2. 野屋敷
3. 上木戸
4. 畑原
5. 中俣
6. 中島
7. 向陽台
8. 高山城跡
9. 神沢
10. 堂の前

第1図 遺跡位置図

ここは高ボッチ山塊の西麓斜面に発達した片丘陵上にあり、平均勾配6°の急斜面を西へ向けている。このため山麓から流下する数条の河川による開析は著しく、台地縁から断崖をもって沢に臨む場合が多い。またこれらによって形勢された台地上には、群小の河川により幾多の小扇状地が形勢されており、複雑な複合層状地形の形態を示している。

竜神遺跡の立地する尾根状台地は、これらの沢によって形勢されたものであるが、現在、北側の谷には表流水はなく、また南側の谷には発掘地点よりやや上方に湧水域があり、僅かな水量を送り出している。

発掘地はやや西へ傾斜した日当たりのよい斜面で、遺跡の立地としては好条件を有している。本遺跡の北隣りの台地上には山ノ神遺跡が、また南隣りの谷間と台地上には竜神平遺跡がそれぞれ広く展開しており、やはり立地環境の好条件を物語っている。

発掘区を設定した台地上には、厚いローム層を基盤として上位に黒褐色壤土(表土)が被覆している。表土は尾根上と斜面でほぼ同じ厚さを測り、約40cmであるが、Eトレンチを設定した南側の一段低いテラス面では約130cmを測り、埋土による埋積土と考えられる。傾斜地であるため多少の層内移動が起こっているが、総じて攪乱は少なく比較的保存状態のよい覆土となっている。

(高羽 喜彦)

第2節 周辺遺跡

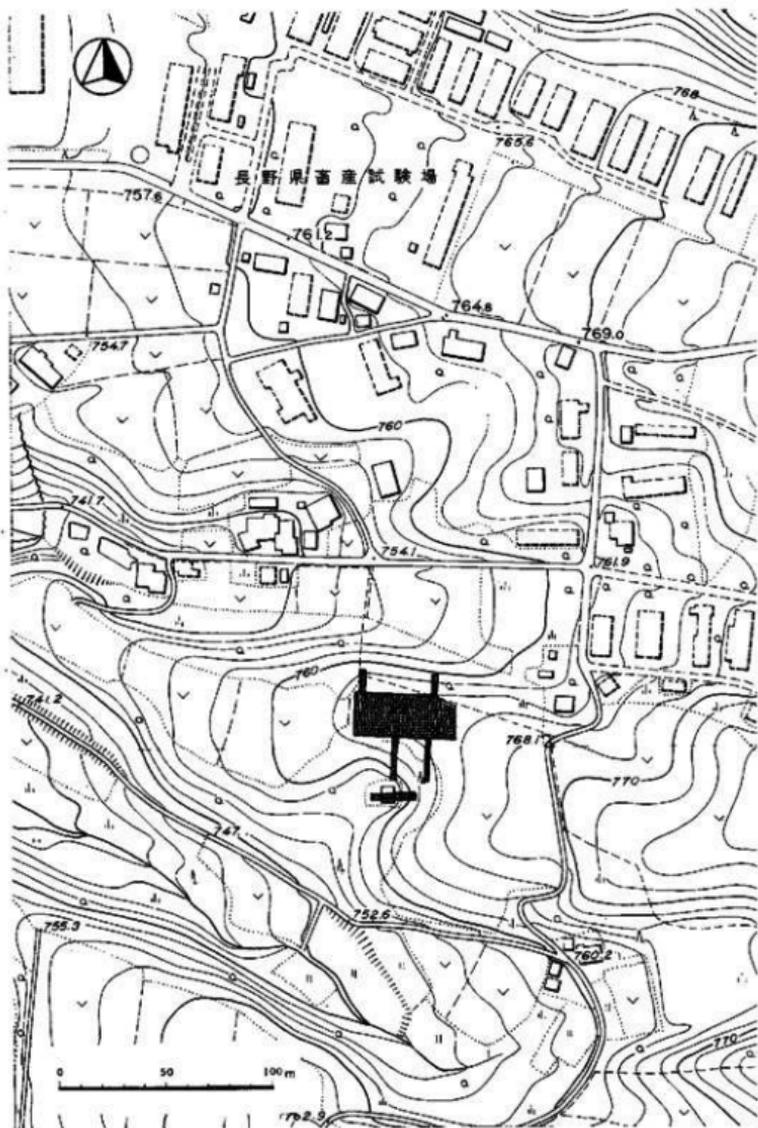
松本平東南部を走る筑摩山麓から田川流域にかけては有数の遺跡稠密地帯となっており、毎年行われる幾多の発掘調査により、その様子は徐々に明らかになってきつつある。地理的・時間的継続性を経ながらも営まれ続けて来た生活跡を遺跡により以下概観してみたい。

先土器時代では小丸山、赤木山、丘中学校、向陽台、青木沢、柿沢等で遺物が出土している。まだ十分とは言いがたい調査範囲でありながら、この地域がかなり濃密な生活域だったことが伺われる。

縄文時代早期では、八窪、向陽台、福沢、堂の前で住居址や集石などの遺構が発見され、組原圃の神で押型文土器が出土している。本遺跡においても以前に押型文土器が得られているが今回の調査では確認されなかった。

前期になると、片丘地区だけでも中原、竹ノ花、舅屋敷、小丸山、八幡原、大林、富士塚、女大山ノ神など多くの遺跡がある。過去2回にわたり調査された舅屋敷では10軒の住居址が検出されている。

中期にはいと遺跡は急増し、この時期全般が筑摩山地東麓を一大生活空間として保有し、大集落がいたる所に所在していたことを伺わせる。中でも北熊井の組原では、ほぼ全期にわたる計147軒の住居址が円環状に検出された。またこの北東隣りの沢を隔てた台地上にある中原では、勝坂期1軒と加曾利E期3軒の住居址が、小丸山では勝坂期5軒と加曾利E期9軒の住居址がそれ



第2区 竜神道路付近図

それ検出されている。

後、晩期の遺跡はこの地域でも例にもれず急減し、片丘地区では君石で若干の土器片が出土しているのみで、あとは松本市のエリ穴、石行、別方などの数遺跡が知られる程度である。

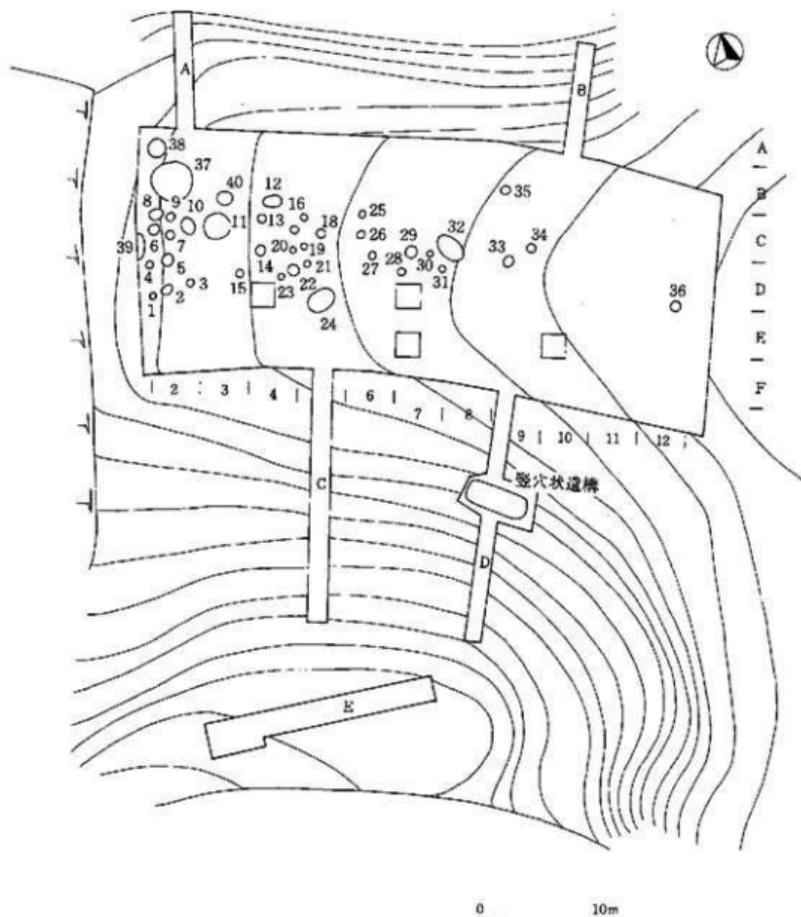
弥生時代では生活域が田川流域に移行していく。田川端で40軒の住居が発見されたのをはじめ向陽台、中挾、丘中学校、中島で住居址、方形周溝墓が確認されている。

古墳時代では白樺で住居址が検出され、平安時代となると丘中学校で5軒、丘中学校南で15軒高出、君石で1軒、向井で85軒、片丘の割屋敷で6軒、内田原で18軒の住居址が検出され、その他にも花見、高田、野村、一夜窟、吉田川西、別方、渋沢、境沢、矢口、久保社屋、鍛冶屋敷、別当原、無量庵、二本木、今泉、俎原、和手などかなりの濃密さをもって所在している。

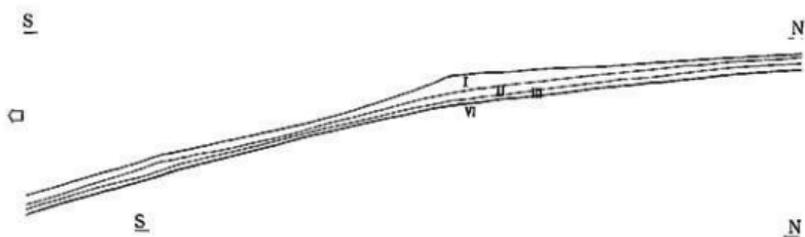
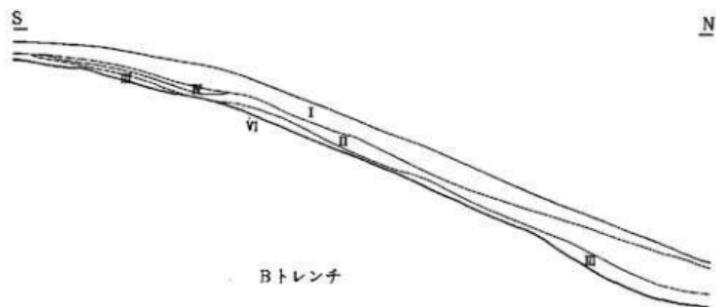
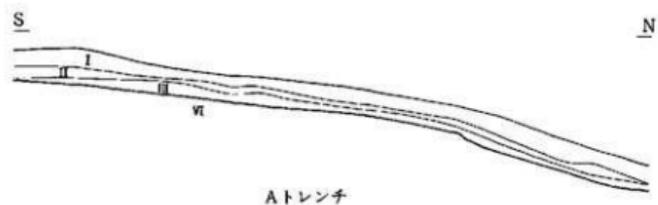
(藤原 典明)

第三章 遺跡の概要

第1節 遺跡の概要

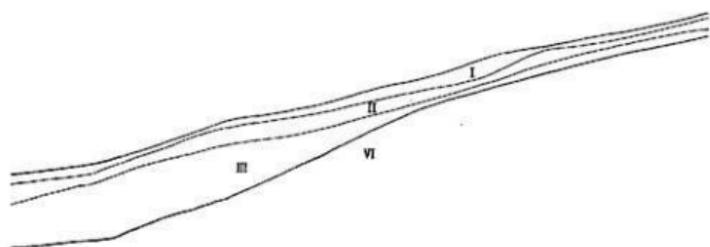
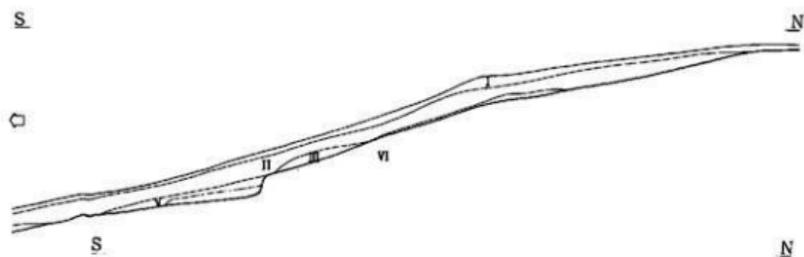


第3区 竪穴遺跡遺構全体図



第4図 A, B, Cトレンチセクション図

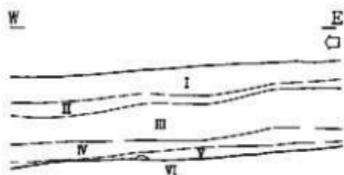




Dトレンチ



- I 黒褐色壤土(地下基多い)
- II 暗褐色土
- III 褐色土(黒色土の混りがあり崩壊土かもしれない)
- IV 黒色土(ローム粒少々含む)
- V 黄褐色土(ローム粒・炭化物を含む)
- VI ローム



Eトレンチ



第5図 D,Eトレンチセクション図

今回発掘調査の対象となった竜神遺跡は、塩尻市片丘南熊井地籍にあり、現在、県畜産試験場の建つ台地とは谷筋一つ隔てた南側の瘦尾根上に展開する。

折しも尾根先端部に中央遺長野線がかかることになり、昭和60年7月から9月にかけて、県埋蔵文化財センターにより緊急発掘調査が実施された。調査の結果、縄文時代のものと思われる集石土壌2基と同中期を中心として前、後期にわたる土器片を多量に出土している(1985 長野県埋蔵文化財センター年報2)。

今回の調査は、そこから約300m程上方にあたる箇所で行われ、尾根上部と斜面および南側の一段低いテラス面を調査域としている。調査面積は1,150㎡に及ぶ。

調査の結果、遺構は、時代不明の竪穴状遺構1基と小竪穴40基が確認され、遺物は縄文時代中期の土器片、石器が出土している。

竪穴状遺構は、南側斜面の中腹に、斜面を崩し平坦域を設けて構築したもので、多量の炭化物を覆土に含んでいたが、出土遺物はなく性格は不明である。

小竪穴は調査区全域にわたって検出されたが、西側を中心に偏在している。数基に縄文時代中期の土器片が混入していた。

土器は縄文時代中期の藤内式を主体としており、また石器としてはやはり同時期のものと考えられる石鎌、スクレイパー、打製石斧、横刃型石器が出土している。

以上、概略を記したが、詳細については他章を参照してもらいたい。

第2節 発掘区の設定

今回の整備事業は遺跡のかなり広範囲にわたって行われることになったが、今回発掘区を設定した牧草地より上方は、すでに過去において造成がなされており、遺跡が消滅していることが事前調査によりわかっていたため、極小範囲の調査域となった。

発掘面積は、尾根上部の牧草地で960㎡、斜面に設定した4本のトレンチで計148㎡、南側の一段低いテラス面で42㎡を覆り、総面積は1,150㎡である。

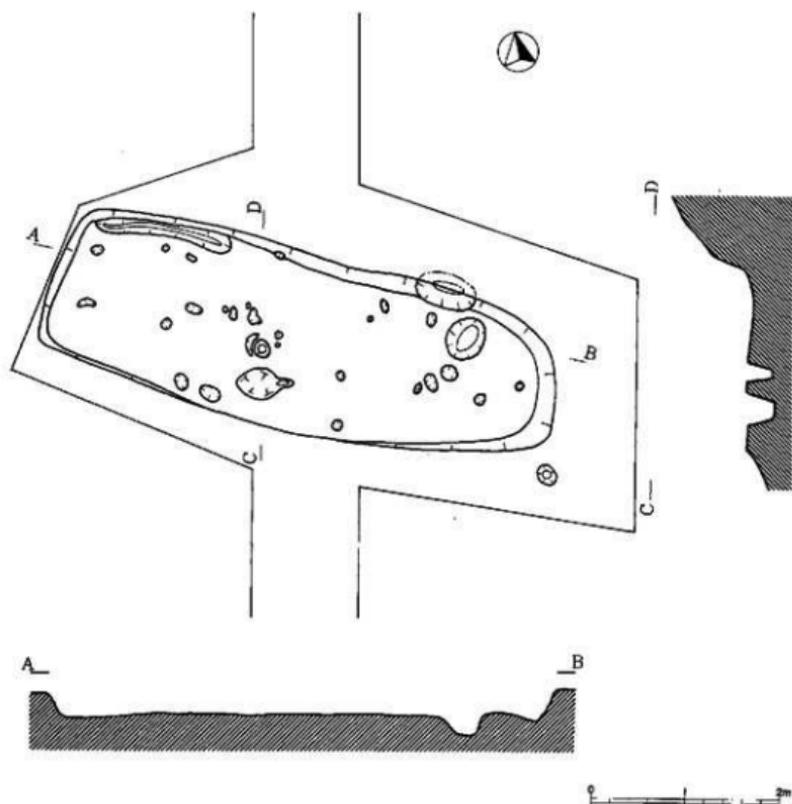
調査はバックフォアによる牧草地の表土除去を行なった後、グリッドを設定した。グリッドは4mの間隔で、北から南へ向かってA～E、西から東へ向かって1～13を設定した。また北側斜面にA、Bトレンチを、南側斜面にC、Dトレンチを、さらにテラス面にEトレンチをそれぞれ設定した。

(鳥羽 嘉彦)

第IV章 遺 構

第1節 竪穴状遺構

本址は、Dトレンチの北側から約8mのトレンチ中腹部の位置に、第II層の黄褐色上層を掘り込み検出されたものである。斜面を崩し、平坦域を設けて構築されていた。



第6図 竪穴状遺構

遺構は長軸5.40m、短軸1.90mの隅丸長方形を呈し、N75°Wの長軸方向を指している。西側の両隅はほぼ直角を呈しているのに対し、東側はやや角付けが弱く、丸みを帯んでいる。

壁は多少凹凸がみられるが、ほぼ垂直なはっきりとした立ち上がりが見られる。斜面上方にあたる北壁は保存状態が極めてよいが、南壁は斜面下方により洗われてしまい一部消滅している。壁高は北壁西隅で18cm、北壁東隅で29cmを測る。

床面は平坦水平であり、多少、木の根痕による凹凸がみられるが、概してよく掃っている。また根痕とはやや性格を異なると思われる小穴も多く存在し、床面はまさに「穴だらけ」の感を受ける。北壁西側に一部周溝状の溝が認められ、長さ145cm、幅18cm、深さ2cmを測る。

本址の覆土には多量の炭化物が混入しており、また床面の小穴にも炭化物が例外なく詰まった状態であった。炭化物は一定の形をなさず細片に砕けていたため原形を推し測ることはできなかったが、産出状況から火災による上屋の焼け落ちを想定させるものであった。

本社からは出土遺物が皆無で、時代あるいは遺構の性格を判断するに至らなかった。

(鳥羽 嘉彦)

第2節 小 豎 穴

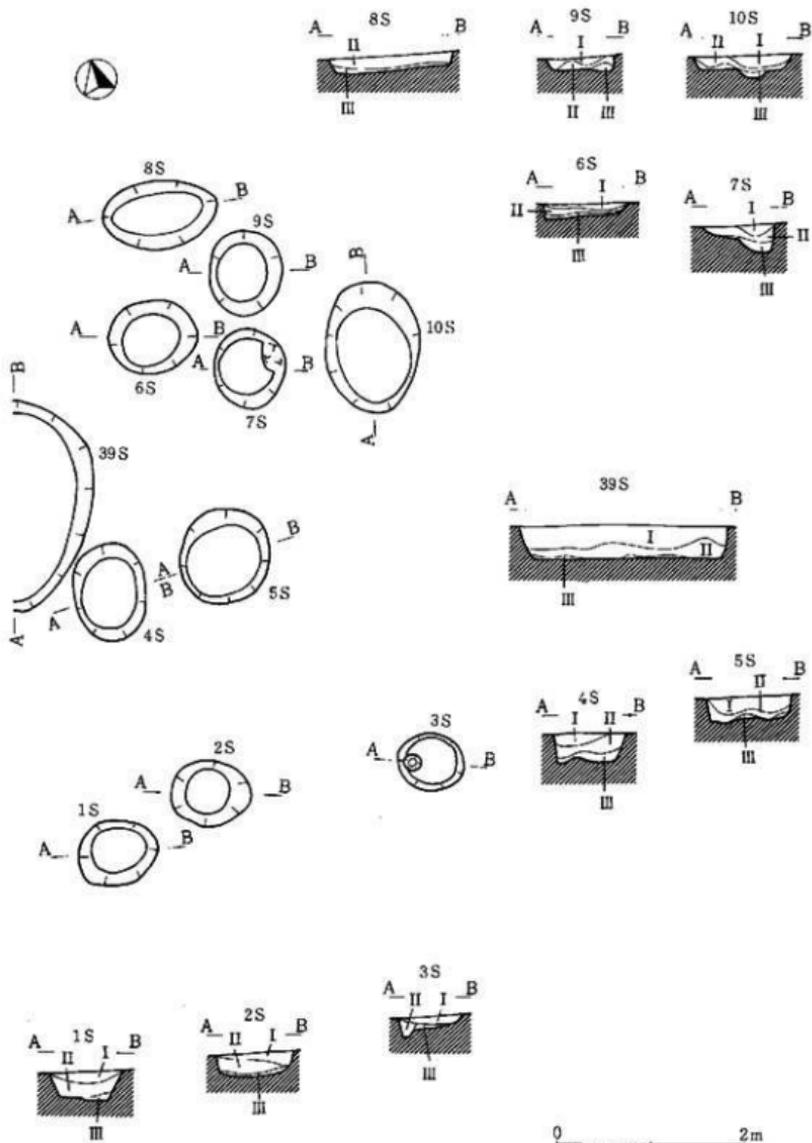
40基検出された小豎穴は全て尾根面にあり、しかもその大半が調査区の西側から中央域にかけての尾根線上に集中しており、北、東、南の各縁辺部には存在していない。5本のトレンチ内でも確認されていない。検出面は第II層の黄褐色土層最上層である。

規模は最大312×295cmから最小46×40cmに至るまで多様であるが、概して径60～80cmのグループと径150～300cmの大型グループに大別される。

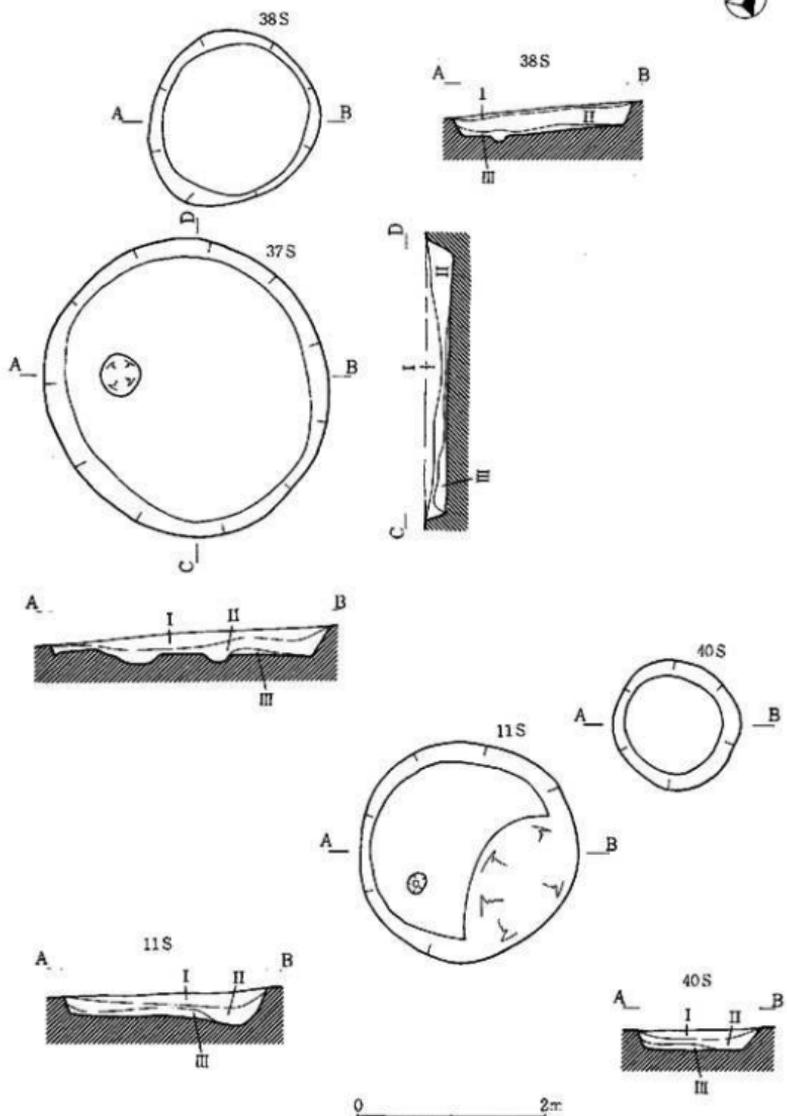
形状は平面形が円形、楕円形、不整形で、断面形はたらい状、楕円状のものであるが、このうち楕円形でたらい状断面のものが最も一般的である。深さは12cm～60cmで20～30cmのものが多く、ローム面に僅かに達している程度である。

出土遺物は、とくに西側に所在する小豎穴から僅かに縄文中期新遺期の土器片が出土したが、いずれも覆土中であり、表土に攪乱時に混入したものと思われる。

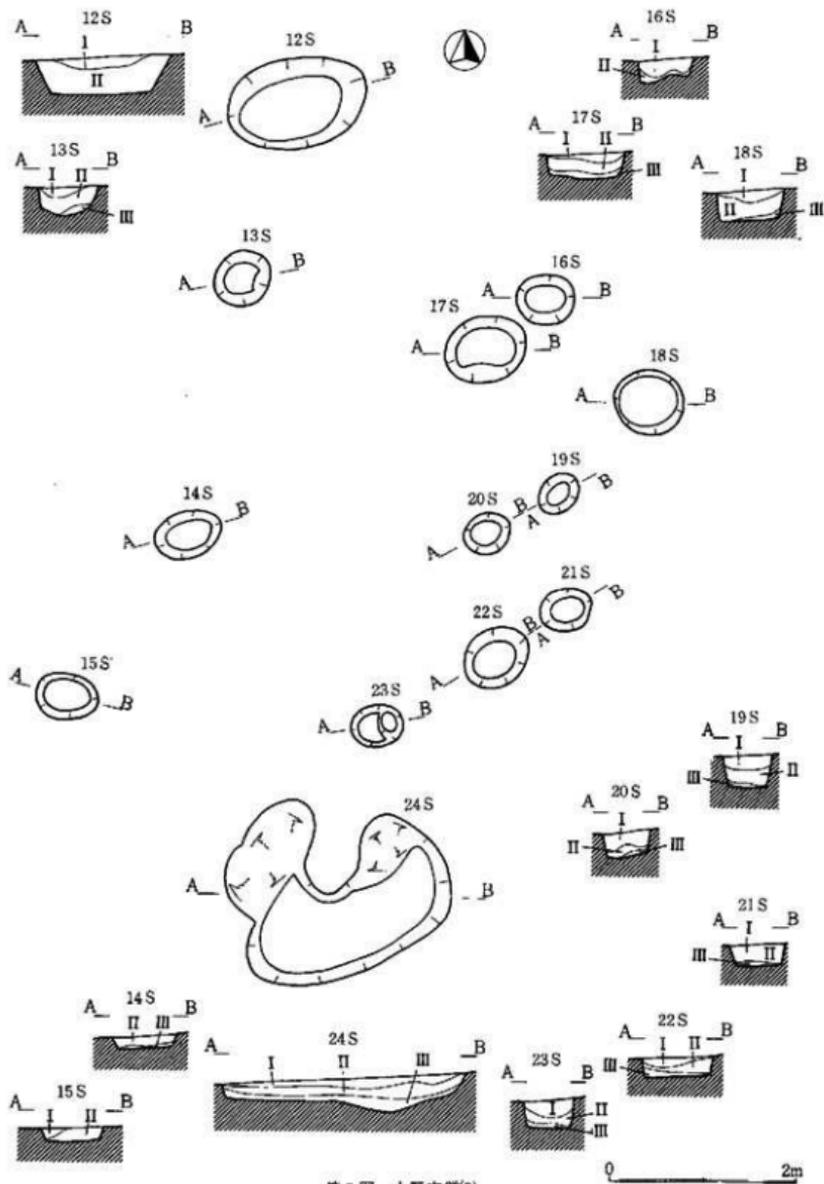
(鳥羽 嘉彦)



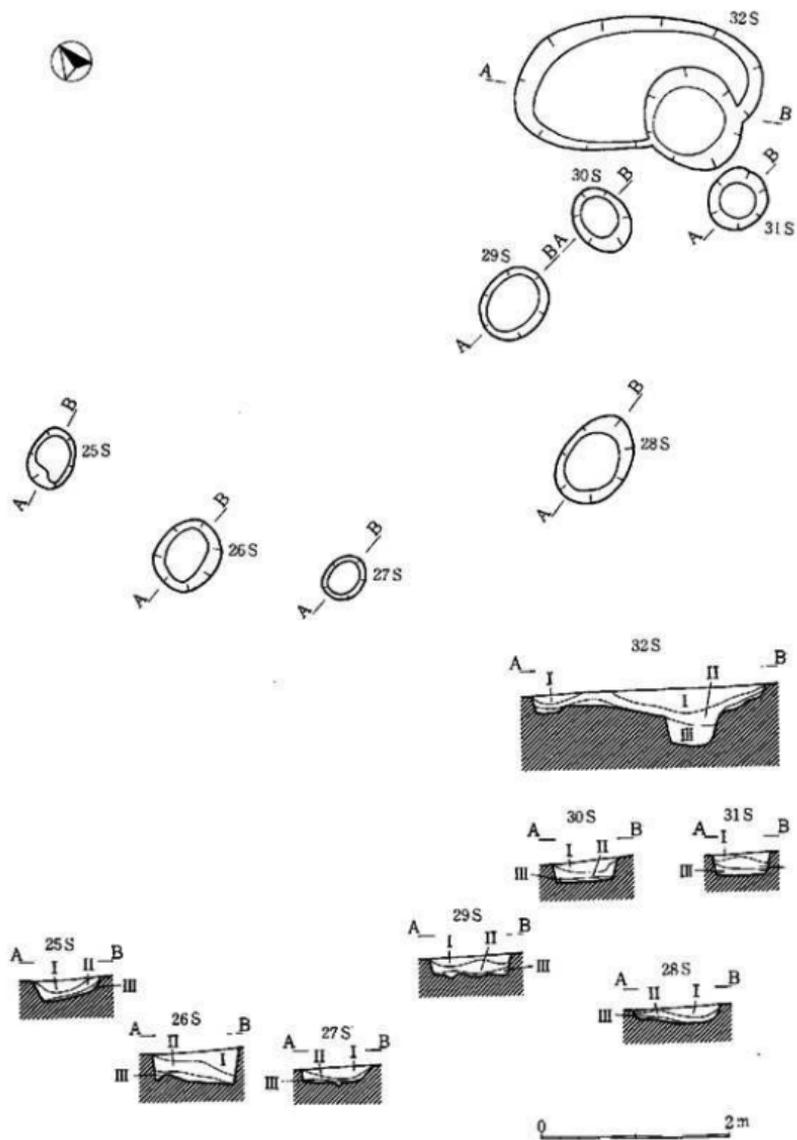
第7圖 小螢火群(1)



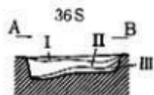
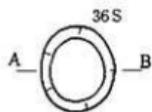
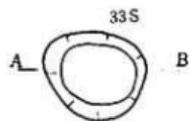
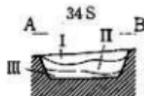
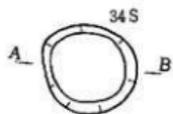
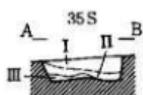
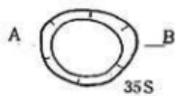
第8区 小豎穴群(2)



第9圖 小壑穴群(3)



第10图 小窖穴群(4)



第11圖 小墜穴群(5)

第2表 小竅穴一覧表

No.	確認規模	平面形	主軸方向	断面形	底面規模	底面	深さ	備考
1	84×79	楕円	N-80°-E	たらい状	57×46	平担	30	縄文中期土器片2片
2	84×72	"	E-W	"	45×48	"	26	
3	70×62	"	N-80°-W	"	50×47	平担 (小穴1)	22	
4	104×75	"	N-S	"	74×56	平担 凹凸あり	33	縄文中期土器片2片
5	108×96	"	N-S	"	77×77	平担	26	
6	94×77	"	N-85°-E	"	62×53	平担	16	
7	87×76	"	N-10°-W	楕円状	58×56	丸底	30	
8	122×74	"	N-80°-E	たらい状	98×43	平担	17	
9	92×77	"	N-S	"	62×54	平担	16	
10	140×100	"	N-20°-W	"	100×76	二段平担	24	
11	232×232	円形	——	"	184×122	平担	24	
12	150×96	楕円	N-80°-E	"	110×64	"	40	
13	60×55	"	N-40°-E	楕円状	34×30	丸底	28	
14	72×50	"	N-70°-E	たらい状	50×30	平担	12	
15	66×50	"	E-W	"	50×34	"	15	
16	62×53	"	E-W	楕円状	43×36	二段丸底	24	
17	88×70	"	N-65°-E	たらい状	64×40	平担	25	
18	73×68	円形	——	"	58×54	"	30	
19	48×38	楕円	N-50°-E	"	28×18	"	34	縄文中期土器片1片
20	52×44	"	N-55°-E	"	33×25	やや丸底	26	
21	58×45	"	N-60°-E	"	36×27	平担	23	
22	76×62	"	N-55°-E	"	46×37	"	21	
23	57×45	"	N-80°-E	"	40×30	やや丸底	28	
24	237×194	不整形	N-60°-E	楕円状	186×108	丸底	37	
25	65×50	楕円	N-60°-E	"	45×38	"	23	
26	75×65	"	N-80°-E	たらい状	68×40	平担	33	
27	46×40	"	E-W	"	35×30	平担 (小穴1)	20	
28	103×79	"	N-85°-E	楕円状	68×54	丸底	18	
29	82×67	"	E-W	たらい状	65×46	凹凸あり	22	
30	65×60	"	N-80°-E	"	37×27	平担	23	
31	70×65	"	E-W	"	50×50	"	22	
32	262×140	"	N-40°-W	"	226×115	段々	60	
33	110×94	"	E-W	たらい状	80×54	平担	24	
34	104×93	"	N-60°-W	"	82×74	"	33	
35	102×80	"	N-80°-W	"	75×60	"	27	
36	96×80	"	E-W	"	65×58	"	25	
37	312×295	"	N-50°-W	"	273×259	平担 (小穴3)	33	
38	190×173	"	N-10°-E	"	162×150	"	30	
39	228×85<	"	N-S	"	198×67<	"	35	
40	130×130	円形	——	"	100×100	平担	22	

第V章 遺 物

土器

今回の調査では、少量ではあるが縄文時代中期の土器が出土した。これらの中には多少、小型穴出土のものがあるが、大部分は遺構外出土のものである。

岡上復元した1は調査区の南斜面の下、Eトレンチより出土した。これは高所からの流れ込みと思われる。口径約13cmを計る深鉢でキャリバー形を呈している。口縁部は半截竹管により整形されており、その下に角状押引文、ソーメン状貼付文、半截竹管による半隆起線文、および平行沈線が施されている。これらの文様が横位に施されているのに対し、胴部は縦位の平行沈線とL R縄文によって文様構成されている。色調は茶褐色を呈し、焼成は良好である。縄文中期初頭、梨久保式に相当し、松本平では貴重な資料といえる。

2～5は押引文を特徴とする土器である。3は斜縄文を地文としている。6、7は隆帯の両側に角押文が施され、6は一部押引文もみられる。8、11、12は縄文を基調としており、8は平行沈線を伴っている。11、12は同一個体の土器と思われる。9、10は沈線によって文様構成されている。以上は、縄文時代中期、新道式に相当すると思われる。

石器

今回の調査では石鏃3点、スクレイパー1点、打製石斧3点、横刃型石器2点の計9点の石器が出土した。これらの石器はいずれも遺構に伴うものではなく、調査区の南側斜面の下のEトレンチから集中して出土した。

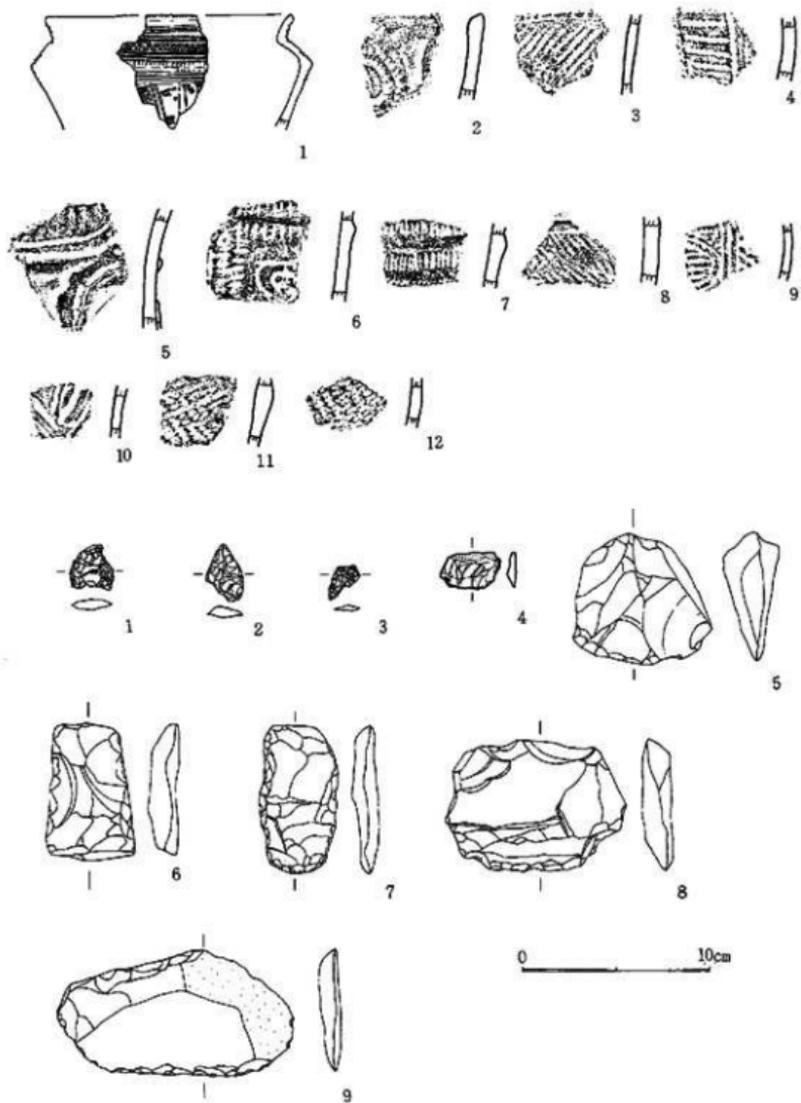
石鏃1、2は大型で厚みもあり重量感がある。1は粗雑なつくりである。3は一部欠損するが、折れも深く丁寧に加工されている。スクレイパー4は、弧状の刃部をもち、一部原石面を残す。打製石斧5、6、7は丁寧に剥離されている。8、9は横刃型石器である。9は剥片を用いた粗雑なつくりをしており、一部原石面も残す。また刃部には使用痕が認められる。

以上、概略を記してきたが、個々については第3表を参照されたい。

(腰原 光明)

第3表 石器観察表

番号	グリッド・トレンチ	種 別	石 材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	備考
1	D - 2	石 鏃	黒曜石	2.3	2.2	6.6	3.8	
2	Eトレンチ	"	"	3.0	1.9	0.6	2.7	
3	——	"	"	1.7	1.6	0.2	0.9	
4	——	スクレイパー	"	1.9	3.3	0.5	3.2	
5	E - 10	打製石斧	珪質頁岩	6.9	7.4	2.6	107.0	
6	Eトレンチ	"	頁 岩	7.3	4.7	1.5	62.2	
7	"	"	"	7.8	4.0	1.3	44.5	
8	A - 3	横刃型石器	"	6.8	9.6	1.5	120.0	
9	E - 10	"	"	6.2	12.4	1.0	97.0	



第12圖 出土遺物

第Ⅵ章 まとめ

片丘丘陵の中腹にある竜神遺跡は、両側を沢によって解析された尾根状台地の狭長な頂部に所在しており、水利、日照、展望ともに最適な地となっている。また北隣りの現在、県畜産試験場が建つ台地上には、縄文時代早期、後期、平安時代の複合遺跡である山ノ神遺跡が広く展開しており、古代集落においては良好な立地環境であることを物語っている。

しかし僅かな谷を隔てたこの竜神の台地では、これまであまり人の目に触れることなく、遺跡としても認められていなかった。遺跡を確認できなかった最も大きな要因は、現在そのほとんどが牧草地または雑木林に利用されていることから表面踏査による遺物採集が困難なことによるものであろう。

そんな中で折しもこの台地の先端に中央道長野線用地が掛かることになり、調査を担当している長野県埋蔵文化財センターによる事前調査が行われた際、縄文土器片を採集したことにより新遺跡として「竜神遺跡」の発見届けが提出されたのである。

今回の長野県畜産試験場整備事業の対象となった地域は、その大部分が以前、牧草地を造成する際に削平されており、遺跡の有無をもちや確認できないものとなっている。しかし、その最も先端域、即ち今回の調査区域を設定した場所においては原地形がかなり残っていると判断され、今回の発掘調査となったものである。

調査の結果、かなり深部にまでロータリーの爪跡が残されていたが、40基というかなり密度の高い小竪穴群を検出することができた。住居址こそ確認できず集落の存在を明らかにすることはできなかったが、集落とは隔離された墓域の可能性を伺わせるものであった。

また出土した遺物は頂部調査区が縄文時代中期の新道期の遺物であるのに対し、Eトレンチを設定した一段低いテラス面では同じく中期の梨久保期の遺物であった。僅かな高低差による時期的な相違は、今回のように狭い調査区では空間的な把握に限界があり、判断し難い。しかし遺物としては市内でも僅少なものであり、大きな成果であった。

秋本番のやや強い寒風が吹きすさぶ日もあった発掘調査であったが、これに参加し、御協力いただいた作業員の皆さんには心よりお礼を申し上げるとともに、深い御理解と御援助をいただいた県畜産試験場の職員の方々には衷心より厚く感謝申し上げる次第です。

(鳥羽 嘉彦)

版 圖



表土除去



調査地区全景



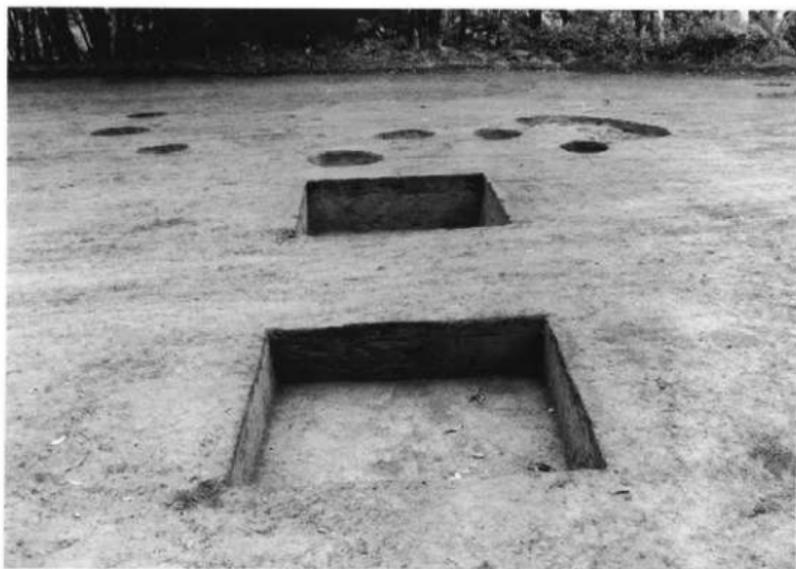
南側テラス面 (Eトレンチ)



小竪穴群



小整穴掘り下げ



ローム掘り下げ



Aトレンチ



Bトレンチ



Bトレンチセクション図側図



Cトレンチ



Dトレンチ



整穴状遺構



Eトレンチ掘り下げ



機材撤収

竜 神 遺 跡

—長野県畜産試験場整備事業発掘調査報告書—

昭和62年3月20日 印刷

昭和62年3月22日 発行

発行 塩尻市教育委員会
